国際 - 1

第 10 回国際科学技術大臣会合の結果について

“ The 10th Science and technology Ministers’ Roundtable Meeting”

平成 25 年 10 月 17 日
内　　閣　　府
政策統括官(科学技術政策･ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ担当)

1. 日　時：平成 25 年 10 月 6 日（日）　16:30～18:45

2. 場　所：国立京都国際会館（京都市左京区宝ヶ池）　Annex 1

3. 参加者：世界 27 ヶ国の科学技術大臣等が参加（別紙参照）

4. テーマ：グローバル化する世界における人を通じた知識共有の拡大
Enhancing Knowledge Sharing through People in the Globalizing World
＜論点＞
① 人材の流動性の地理的不均衡をどのように見て、どう評価するか。
② 人材流動、とりわけ、先進国から途上国へのフローをさらに加速するための方策を探求すべきではないか。
③ そのような流動性を拡大するために解決すべき課題は何か。そのためのイニシアチブは何か。

5. 結果概要：

(1) 山本科学技術政策担当大臣が会議の議長を務めた。冒頭、山本大臣から
- 福島第一原発の汚染水問題について安倍総理が約束したとおり、政府一丸となって対応し必ず解決すること。
- 日本は、安倍政権発足後、日本経済の再生に向け、3 本の矢によるアベノミクスを実行していること。科学技術政策担当大臣として、経済成長の原動力である科学技術イノベーション政策を推進していること。

について言及があった。
次に本会合においては、参加各国の国際的人材交流拡大に向けた取組みの経験を共有することを期待するとともに、上記テーマ及び論点に沿って情報交換・意見交換を行いたい旨の発言があった。

(2) まず、倉持内閣府政策統括官（科学技術政策・イノベーション担当）より、人材流動に係る世界の動向、国際的化に向けた我が国の基本政策（第 4 期科学技術基本計画、科

学技術イノベーション総合戦略等）に基づく取組と成果、さらにこれまでの経験を踏まえて将来に向けて取組むべき方向性等について説明があった。

(3) 次に、以下の 3 ヶ国から各国の取組み等について説明があった。

① フランスのフィオラゾ高等教育・研究大臣から、多くの研究者等を受け入れるため、フランス語以外の言語で教育、研究を行うこと、共同で科学論文を出版できるようアフリカ諸国にトレーニングスクール設置するといった取組の説明があった。

② メキシコのメンドーサ国家科学技術審議会長官から、同審議会の奨学金による海外留学促進の取組及び各国との協力状況、また人材交流を行う上で競争するだけでなく協力、共同できる政策を立てることの重要性について説明があった。

③ シンガポールのチュアンポー科学技術研究開発庁長官から、国際的な科学者を惹き付けるための研究環境づくりの具体的取組、奨学金による海外留学とネットワークづくりの具体的取組等について説明があった。

(4) その後、出席者から各国の取組み等の紹介等がなされた。具体的には、

① 世界的な人材流動については、できる限り各国間の交流を双方向のものとした上で、一層その拡大を図るべきことについては異論がなかった。

② 各国から、人材流動をさらに加速させるために具体的な取組みとして、研究者等の派遣・招聘事業の強化に加え、各国において科学技術イノベーションの中核となるハブの形成や、これに伴う、外国人研究者等受入れ促進のための、外国人研究者の生活環境の充実、研究者用のビザの発給などの施策について報告がなされた。

③ また、複数の国から、科学技術イノベーション人材の流動性を高めつつ、人材育成の課題に取り組んでいくため、日本とのパートナーシップの強化に期待している旨の発言があった。

(5) 最後に山本大臣から、参加各国に対する謝辞が述べられるとともに、今後、参加各国間で様々な連携・協力が推進されることへの期待が述べられ、会議は終了した。

6. その他

(1) 二国間会談等

山本大臣は、本大臣会合に出席した以下の大臣等と二国間会談等を行った。

●ペレンベ科学技術大臣（モザンビーク）

●ウォルポート政府主席科学顧問（英国）

●ウー科学技術大臣（ミャンマー）
●カストロ国家評議会科学顧問（キューバ）
●オルモ研究開発イノベーション省長官（スペイン）
●ハネコム科学技術大臣（南アフリカ）
●フィオラゾ高等教育・研究大臣（フランス）
●ラムジー高等教育・科学研究大臣（エジプト）
●ラッセン高等教育・科学研究・幹部養成大臣（モロッコ）
●コストイウ高等教育・科学研究・技術開発担当大臣(ルーマニア)
●デルアンブロージオ教育科学技術庁長官（スイス）
●モホスィ通信・科学・技術大臣（レソト）

(2) 山本大臣主催昼食会

大臣会合に先立ち、同日、山本大臣主催の昼食会を各国大臣等のネットワーキングの場として開催し、クールジャパンを紹介した。

別　紙

第 10 回国際科学技術関係大臣会合出席者（平成 25 年 10 月 6 日（日））

	国　名	氏　名	役　職
1	キューバ	フィデル・カストロ・ディアス・バラルト	国家評議会科学顧問
2	ドミニカ共和国	プラシド・ゴメス・ラミレス	高等教育・科学技術副大臣
3	エジプト	ラムジィ・ジョージ・スティーノ	科学研究大臣、副首相
4	フランス	ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ	高等教育・研究大臣
5	ガボン	セラファン・ムンドゥンガ	国民教育・高等教育・科学研究大臣
6	インド	K. ヴィジェイ・ラガバン	科学技術省バイオテクノロジー局次官
7	アイルランド	ショーン・シャーロック	研究・技術革新担当大臣
8	日本	山本　一太	科学技術政策担当大臣
9	ケニア	ジェイコブ・カイメニ	教育科学技術庁長官
10	コソボ	ラメ・ブヤ	教育・科学・技術大臣
11	レソト	ツィディソ・セス・モホスィ	通信・科学・技術大臣
12	マレーシア	アブ・バカー・モハマッド・ディア	科学・技術・革新副大臣
13	モーリシャス	ラジェシュワー・ジータ	高等教育・科学・研究・技術大臣
14	メキシコ	エンリケ・カブレロ・メンドーサ	国家科学技術審議会長官

	国　名	氏　名	役　職
15	モルドバ	イオン・ティギネアーヌ	科学アカデミー 第一副総裁
16	モロッコ	ラッセン・ダウディ	高等教育・科学研究・幹部養成大臣
17	モザンビーク	ルイス・アウグスト・ムトメネ・ペレンベ	科学技術大臣
18	ミャンマー	コー・コー・ウー	科学技術大臣
19	ポーランド	マリア・エルジュビエタ・ オルウォフスカ	科学高等教育省次官
20	ルーマニア	ミフネア・コスミン・コストイユ	高等教育・科学研究・技術開発担当大臣
21	シンガポール	リム・チュアンポー	科学技術研究開発庁（A＊STAR）長官
22	南アフリカ	デレック・ハネコム	科学技術大臣
23	スペイン	カルメン・ベラ・オルモ	研究開発イノベーション省長官
24	スイス	マウロ・デルアンブロージオ	内務省文部科学技術庁長官
25	タイ	ピーラパン・パルサック	科学技術大臣
26	英国	マーク・ウォルポート	英国政府主席科学顧問
27	ベトナム	レ・ディン・ティエン	科学技術副大臣

国際科学技術大臣会合の様子

議長と務める山本大臣とリード国

「グローバル化する世界における人を通じた知識共有の拡大」
Enhancing Knowledge Sharing through People in the Globalizing World

キューバ
ドミニカ共和国
エジプト
フランス
ガボン
インド
アイルランド
日本
ケニア
コソボ
レソト
マレーシア
モーリシャス

議長とリード国

メキシコ
モルドバ
モロッコ
モザンビーク
ミャンマー
ポーランド
ルーマニア
シンガポール
南アフリカ
スペイン
スイス
タイ
英国
ベトナム

議論の様子と参加国との記念撮影

※日本を含む27ヶ国の科学技術政策担当大臣や科学技術顧問等が出席。

二国間会談の様子

モザンビーク：ペレンベ科学技術大臣

英国：ウォルポート政府主席科学顧問

ミャンマー：ウー科学技術大臣

キューバ：カストロ科学顧問

スペイン：オルモ長官

南アフリカ：ハネコム科学技術大臣

フランス：フィオラゾ大臣

エジプト：ラムジー大臣

モロッコ：ラッセン大臣

ルーマニア：コストイウ大臣

スイス：デルアンブロージオ長官

レソト：モホスィ大臣

山本大臣主催昼食会の様子

ネットワーキングの場として開催

クールジャパンを紹介